令和5年度 第1回 神奈川県循環器病対策推進協議会

報告事項３

報告(3)テレストローク機器体験及び意見交換会について

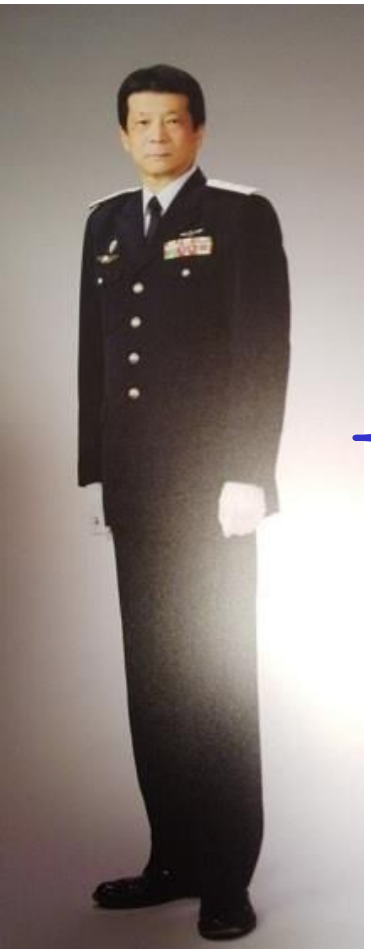
令和5年7月6日
神奈川県 非常勤顧問
山田　憲彦（元空将）

略　歴

山田　憲彦（S35.5.生、63歳、兵庫県出身）

防衛医大（S60年卒）

職歴：



S60年～　臨床研修・空自（小松・浜松）勤務

H2年4月～　大学院（大阪大）
＠岡崎　基生研、東大医科研

（H7年；阪神・淡路大震災（1月）地下鉄サリン事件（3月））

H7年10月～　防衛庁　空幕・統幕勤務

H17年4月～　防衛医大　防衛医学講座　教授

H20年8月～　防衛省　空幕　首席衛生官

H24年12月～航空医学実験隊司令

H27年3月～　防衛医大　幹事（H30.12.20.退

H31年4月～　神奈川県　（非常勤顧問）

R２年9月～　神奈川県立保健福祉大学顧問

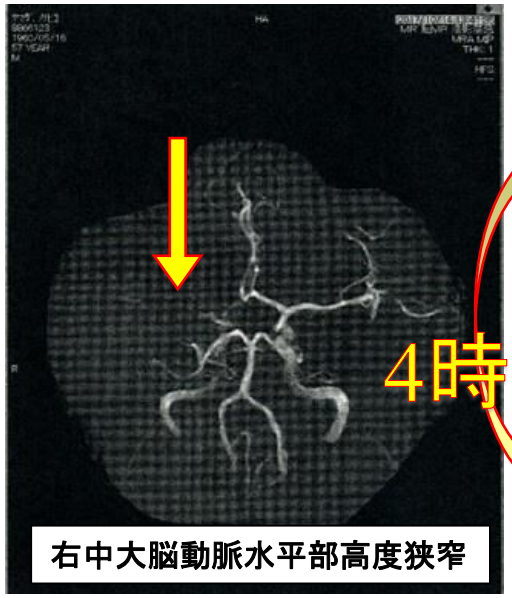
臨　床
内　科

基　礎
分子生物

行　政
危機・災害

教　育
防医・岐阜

脳梗塞とのご縁



4時間

2017年10月14日（土）

1130 買い物から帰宅⇒読書開始

1203 起立時に激しい目まい感

⇒横臥

1220 左運動麻痺・構音障害

⇒救急隊要請 ⇒近医機関

（NTT東日本関東病院）

1600頃 MRI、脳血管撮影　終了

⇒t-PA投与⇒回復

東京都内、日中、家族在宅でも、t-PA投与のタイミングはギリギリ・・・

⇒災害時なら、麻痺は残っただろうなぁ～！

⇒普段から、治療に間に合っていない方もかなり多いのでは？

自宅等でも安全・簡便に実施できる介入手段を開発できれば・・・

⇒災害時の対応も、平素の受療率も、改善できるのでは？

・循環器疾患救急対策推進事業（R元年～）

・いのち・未来戦略本部の皆様とイノベーション推進

テレストローク機器体験及び意見交換会

ー経緯等ー

- 長谷川副委員長と、県顧問山田との意見交換より派生した。
- 想定外に多数の研究者・行政官等が参加することとなった。
- 機器の機能やポテンシャル等の理解を深める場として企画した。
- さらに、研究者の取り組みを臨床家に紹介し、テーマを設定して分野・組織横断的な意見交換を実施した。

日時：2023年6月13日（火）　14:00～17:00
場所：県庁第5会議室　　資料・別紙参照

デモ機

Teladoc HEALTH
Lite 4

デモ機については、WeMex株式会社様のご協力を頂いた。

協議会で報告する趣旨

同会で紹介・議論された内容で、県の循環器病対策推進計画に定める「取り組むべき施策」の具体化に関連する内容を紹介

循環器病対策の総合的・計画的な推進に資する。

1．ﾃﾚﾒﾃﾞｨｽﾝ/ﾃﾚｽﾄﾛｰｸの社会実装環境

2．横断的なﾆｰｽﾞ/ｼｰｽﾞ交換・連携の場

テレメディスン/テレストロークの社会実装環境
（均てん化を図る医療機能の役割分担/連携の検討推進）

機が熟しつつある。

- 制度面の課題はクリアーされつつある（国・学会）
  法的課題、診療報酬、各種プロトコール等
- ITリタラシーの飛躍的向上（潜在的ユーザー）
  コロナ禍のオンライン業務⇒現場で即時的に活用可能

導入に向けた具体的な活動（検討）を開始する時期

県レベルの計画的導入前に必要な検討事項（抜粋）；
・具体的所要（地域・件数等）
・脳・心・他の救急疾患との協同・整合
・段階的整備／働き方改革への対応等を機に一気に整備

参　考

神奈川県循環器病対策推進計画（令和4年3月）

第4章 第2節 第2項 (2)取り組むべき施策

県内のどこに住んでいても、どこで発症しても、適切な治療を受けられる体制の構築を進め、脳卒中、心血管疾患の特性に応じた医療の均てん化を図るため、医療機能の役割分担と連携に係る検討を進めます。

横断的なニーズ/シーズ交換・連携の場

（学術分野や組織の壁を取り払った研究開発の推進）

非常に創発的であった。（一例）

- 力触覚技術（横浜国大　下野先生）

「指や手に伝わる圧力を遠隔で模倣する技術は、遠隔触診や、超音波診断装置の遠隔操作等の実施を可能にする感触を得た。」長谷川先生

本格的な交換・連携の場の必要性・有効性

ニーズ側として協議会委員の皆様のご協力を要望

∵循環器病の医・看・リハ・救急・患・行政の多職種からなるコミュニティ

本格的推進の前提事項等；

・文科省「共創の場」への採用（横浜国大・神奈川県等）（ﾏﾝﾊﾟﾜｰ）

・横浜国大湘南キャンパスの具体化（場の提供）

・湘南iパーク等、県内外の学術・研究機関にオープン（多様なｼｰｽﾞの確保）

⇒ニーズ側（こういう事で困っている。）と、シーズ側（こういう事が実現できそう。）が、相互にアイデアを交換し、継続的な連携の下に効果的なイノベーションを推進

参　考

神奈川県循環器病対策推進計画（令和4年3月）

第4章 第3節 第2項　取り組むべき施策

また、県のヘルスケア・ニューフロンティア施策における循環器病の研究推進では、特に、「発症直前の予兆から救急搬送開始まで」の間を「発症期」として新たに着目するとともに、「予防・早期介入から後遺症を有する者のQOL向上に資する方法まで」の研究開発について、学術分野や組織の境界を取り払い、医学の取組に加え、理工学や人文社会科学の学術的知見などを融合させた研究開発を推進します。